

令和4年度 第2回ルール・ガイド制度検討部会 議事録

日時： 令和5年1月4日 午後5時00分～午後6時00分

会場： 父島（村役場本庁舎2階会議室）、母島（オンライン開催 Webex）

出席： （以下敬称略）

小笠原村観光協会	原田龍次郎（部会長）
	竹澤 博隆
	筒井 浩俊
	石井 亮（南島利用検討作業部会）
小笠原母島観光協会	茂木 雄二
	梅野 ひろみ
小笠原ホエールウォッチング協会	工藤 志保
小笠原野生生物研究会	島田 克己
小笠原自然観察指導員連絡会	欠席
小笠原自然文化研究所	佐々木 哲朗
国交省小笠原総合事務所	永井 公彦
環境省小笠原自然保護官事務所	松波 若奈
林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター	諸星 雄二
東京都小笠原支庁	寺尾 悟

事務局 小笠原村産業観光課 大津 源
小野寺 将嘉

金子 隆（オブザーバー）

【議事】（以下敬称略）

1. 小笠原諸島自然環境促進地域（南島/石門）の適切な利用ルール等の見直しに関する検討経過報告等

○資料1に基づき小笠原支庁寺尾課長から説明。

○原田

今の説明に対して、質問・意見等あればお願いしたい。

○竹澤

例えば兄島等、3ヶ月の入島禁止期間に代わる別の開放案があってもいいのではと思う。観光客を持続するという意味では、そちらの方が魅力的ではないか。限定感を魅力に感じている方にとっては、マイナスイメージになってしまうのではないかと懸念している。

○原田

色々な捉え方があるとは思いますが、経過観察した上で問題ないとの事だから良いのではないかと。ガイドをはじめ、利用者の人たちの理解・協力の成果として現在がある。新たな場所の開放となると、調整等かなり大変だろう。（兄島等）海岸は上陸していいことになっており、新しいメニューを作る等、観光のアプローチの仕方ではないか。

○竹澤

観光客にしたら自然保護に対する規制緩和は良い印象を持たれない。今のルールのままでも現状変わらないのだから良いのではないかと。

○原田

求めてきた保全が出来ているのだから緩和しても良いのではないかと。ガイドがルールを守って回復していることを評価すべき。

○竹澤

そういった見方もあるのではないかと思ひ発言をした。

○寺尾

「発展的にルールを見直している」といった事が伝わるような周知（打ち出し方）が大事であると考えており、引き続き検討が必要な部分である。ガイドの方々に100人のブランド価値について伺いたい。

○竹澤

観光客側から触れられることが多く、こちらから言うことはない。今後、世界自然遺産登録当時のように混雑したら、景観上美しくない。100人ルールがあれば指導しやすいのでは。現状変わらないのであれば、100人ルールは残してもいいのではないかと。

○原田

オーバーユースの話は出てくる。悪くなった原因がどこにあるのか。どのぐらいインパクト与えるか、整備の仕方によってどれだけ担保できるかが大切。ルール廃止されたのは皆様（お客様）のお陰ですといった語り掛けにより満足してもらおう。廃止したからと言って、提案されたルールがずっと続く訳ではなく、現状が変わった時（悪くなった時）にすぐ対応できる体制がないといけない。

○大津

利用のルールは自然環境に配慮した規制であり、ルールがなくても守られるのがエコツーリズムの理想である。規制がなくても守られるといった発展的な変更であり、それが売りになるのではないかと思う。先ほども意見に出た限定感については理解できるが、観光の売り方として規制をかけなくても、観光協会（事業者）の方で自主ルール等を定めることは考えられるのではないか。

○竹澤

観光の目玉でありながら規制を作るところでインパクトを与えていた。キャッチコピーとして無くなってしまいうのが、どうなっていくのかと考えてしまう。

○原田

一意見として念頭に置いておく。

○佐々木

保全の視点からの意見として、ルートが定められたのは大変効果的で上手くいったと思う。今後もルートは維持される方向で、他ルールが廃止される方向は良いと思うが、この説明資料だけでは少し物足りない。今後もモニタリングを続けながらと記載してあるが、まずは試行期間といった提案であればわかりやすい。モニタリング結果をしっかりと検討・フィードバックする体制・仕組みが必要なのではないか。

○寺尾

南島自然環境の変遷資料があるので、会議後共有させていただく。自然環境が回復したのはここ数年の話ではなく、取り組みを始めてから10年後には、だいぶ回復が見られた。その後、利用人数の段階的な運用緩和、入島禁止期間の縮小を行い、それらを経た上でも植生の回復が確認されたため、今回ルール廃止の方向性を出している。モニタリングの重要性については十分理解しているので、今後もモニタリングは継続させていこうと考えている。

○筒井

100人ルールについては、よく観光客から聞かれる。常に経緯を見えるようにしていただきたい。

○原田

観光客に説明できるようなものがあるといいのではないか。

○石井

1月10日に南島小委員会が開催される予定だが、現時点で最大利用時間（2時間）を撤廃して大丈夫なのかとの意見が出ていた。観光客はガイドが日中連れて行くので問題ないかと思うが、村民利用について、夜通し滞在する

ケースもあるのではないかと懸念が聞かれた。自然環境への配慮として、夜間立ち入り制限等設けたらとの意見がある。

○原田

島民利用についても念頭に置いておかなければいけない。

○大津

そのような意見は協議会の中でも出ていたが、島民の利用については産業観光課で把握しており、何か問題が出れば適宜対応していく考えである。国立公園の利用規制に反しない限り、この中で対応していけばいいのではないか。

○諸星

2時間ルールを撤廃することで排せつ物の処理等どのような対応になるのか。

○石井

観光の船は大体トイレがついているので、島内で処理することはない。

○茂木

南島の規制に関する考え方等、大変参考になった。母島は自主ルールで設定している石門の入山禁止期間等の検討が必要だが、本日の議論を参考にさせていただく。

○佐々木

2時間ルール撤廃によるツアー内容の変化等、見通しはあるのか。

○石井

1日のツアーメニューの組立て上、あまり影響はないと思う。新しいプランの可能性もあるかもしれないが、長く滞在することは考えにくいのではないか。扇池で多少滞在時間が伸びることはあっても、3～4時間も観光しようといった動きはないと思う。

○原田

大きな問題は想定されないから廃止方向であり、良い方向かと思う。

○事務局（小野寺）

本日の意見を参考にさせていただき、引き続き協議会で検討を進めていく。今後案がまとまったら、エコツーリズム協議会の本会に諮る。

2. その他

○寺尾

1月19日入港でガラパゴスの「チャールズ・ダーウィン財団」が来島し、20日に一般向け講演会、21日にガイド向け交流会を実施するので、是非、みなさま参加していただきたい。

以上